

令和4年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	公益財団法人名古屋市文化振興事業団	
施 設 名	名古屋市芸術創造センター	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業	
内 定 額 (総 額)	13,883	(千円)
	公 演 事 業	11,682 (千円)
	人 材 養 成 事 業	2,201 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	0 (千円)

(1) 令和4年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	【芸創コラボ】名古屋市 芸術創造センター連携企 画公演 名古屋二期会・ 芸創オペラ「森は生きて いる」	令和5年3月4日～5 日	[演目] オペラ「森は生きている」 [主な出演者] 名古屋二期会 [スタッフ] 小島岳志、右来左往 他	目標値	1,600
		名古屋市 芸術創造センター ホール		実績値	1,540
2	【芸創コラボ】名古屋市 芸術創造センター連携企 画公演 ANET30周年記念公 演 ミュージカル「泣い て笑って30年」	令和5年1月14日～ 15日	[演目] 舞台企画公演「雨あがりの宴 ～泣いて笑って30年～」 [主な出演者] 天野鎮雄 他 [スタッフ] 川村ミチル、平田聖子他	目標値	1,600
		名古屋市 芸術創造センター ホール		実績値	※1,087

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和4年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	名古屋市芸術創造センター バレエアカデミー及び修了公演	令和4年10月～ 令和5年2月 講座28回・修了公演	修了公演演目：『エチュード～バレリーナへの道』『シンデレラより 四季の精』他 講師：窪田弘樹、後藤晴雄、田川陽子、早川麻実 受講者：25名	目標値	入場者 900名・ 参加者35 名
		名古屋市 芸術創造センター ホール（修了公演） リハーサル室（講座）		実績値	※入場者 475名・ ※参加者 25名

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>当センターは、名古屋市文化振興計画にもとづいて、「名古屋らしい文化芸術の創造拠点」「文化芸術活動の交流拠点」「文化芸術関連の情報収集・発信拠点」「文化芸術における専門人材の配置・育成」をミッションとして掲げている。</p> <p><公演事業></p> <p>事業1「芸創オペラ」は2019年3月の上演を最後に中止を重ね、4年ぶりの上演となった。本来、実演家同士の相互交流や新たな観客層の開拓など意欲的な目標を掲げる事業であるが、中止が三度かさなったため、実演家の間には名古屋のオペラ文化自体の縮小という危機感が迫っていた。よって令和4年度は、公演の完遂自体を最優先とする意識があった。結果として全ステージを完全に上演し、目標の96%に迫る動員を実現した。</p> <p>事業2「ANET30周年記念公演」は当初の予定通り10団体の共演を実現した。</p> <p><人材養成事業></p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響の一つに、ソーシャルディスタンスの厳守を求められた点がある。この点、バレエ講座は指導者・ダンサー間の接触が避けられない性質であるため、2020年から2021年にかけては、公の施設では実施が困難な状況であった。しかし本事業は全28回のレッスンと修了公演を予定どおり完遂することができた。名古屋市域はバレエ教室が多く、バレエ人口も育成されており、当センターのミッションである「名古屋らしい文化芸術の創造拠点」にはバレエが当然に含まれる。当センターの社会的役割を果たすため、感染症の状況を注視しながらも本事業を確実に実施することが求められた。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p><公演事業></p> <p>事業1「芸創オペラ」は、複数団体からの出演募集を実現させることができず、（一社）名古屋二期会のみでの出演となった。これは新型コロナウイルス感染症による空白期間からの再開ゆえ、まず堅実な開催を最優先としたためである。全公演を完遂したことで、今後、芸創オペラ本来の意欲的な目標へ復帰する足掛かりとなった。</p> <p>事業2「ANET30周年記念公演」は10団体が交流し、和楽器奏者が演劇を、バレエダンサーが殺陣を披露するなど、多団体交流ならではの作品を実現した。制作・上演における多団体の取りまとめには、県内の横断的文化団体である愛知芸術文化協会（ANET）の協力で成し遂げた。</p> <p>また、2020年以降の社会情勢（新型コロナウイルス感染症の影響）と公演当日までの変化をメタフィクション的に取り込む道具立ては地域の関心をよび、地元有力紙の中日新聞から取材を受けた。</p> <p><人材養成事業></p> <p>「バレエアカデミー」は、単独のバレエ教室ではできない大規模なレッスンを28回行うことができた。受講者アンケートでは「同年代のダンサーと切磋琢磨できた」との意見もあった。当センターのリハーサル室はホール舞台面と同じサイズである。本事業はこの規模の施設の確保と、助成による講師委託料の確保で初めて実現するものであり、助成を受けた効果を地域のバレエ文化に十分に還元する事ができたと考える。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

<公演事業>

指標①=来場者満足度 85%以上／達成（事業 1=96.0% 事業 2=89.9%）

指標②=8 団体以上の連携／達成（事業 2 で 10 団体）

指標③=割引チケット 40 枚以上の販売／未達成（事業 1=15 枚 事業 2=20 枚 計 35 枚）

事業 1「芸創オペラ」は出演者オーディションを実現できなかった。オーディションに適した時期（令和 4 年度上半期）はオペラ上演を取り巻く環境が不安定なままであり、令和 3 年度と同じく直前に中止を余儀なくされる事態も考えられた。複数団体から出演を募った場合、中止の判断も該当全団体の意思調整を必要とし、時間がかかる分、中止の影響も拡大する。このような理由から名古屋二期会へのみの出演となったが、入団初年の若手にも十分な役を用意し、出演機会を広く平等にする方法を以てオーディション実施に替えた。「エデュケーションプログラム」は、近隣小学校から許諾を得られなかったため実施を見送った。

来場者満足度は 96.0%を達成し、鑑賞者には十分な満足を提供する事業となった。

事業 2「ANET30 周年記念公演」は 10 団体の横断的な共演を実現した。内容の質も、来場者満足度 89.9%という数値に表れている。

<人材養成事業>

指標①=参加者へのアンケートで「参加してよかった」「今後の参考になった」共に 85%以上／達成（共に 100%）

指標②=15 団体以上のバレエ団体からの参加を受ける／達成（17 団体）

指標③=修了公演の来場者満足度 85%以上／達成（95.5%）

指標④=割引チケット 7 枚以上の販売／未達成（3 枚）

「バレエアカデミー」は、4 つの指標のうち①②③を達成することができた。いずれも本事業の需要と、内容への高評価が揃った成果を示している。ここでいう本事業の需要のうち大きなものは、単一の教室では体験できない、名古屋のバレエ界から横断的に集まったメンバーによるレッスンである。指標②が目標を上回った事からは、想定した以上に高い需要が確認できる。

内容への高評価については、特に指標①が目標を上回る 100%を達成しており、受講者の期待に応えうる水準の講座であったことが示されている。講座を経て開催された修了公演も指標③に示すとおり水準であると評価を受けた。

指標④のみが目標を下回った事は、修了公演の動員（=母数）全体の低調が反映されている。動員が伸び悩んだ要因は、受講者数の減少（目標 36 名に対し応募 26 名）が大きい。これは、受講者の募集時期にあたった 2022 年 3 月頃、愛知県にもまん延防止等重点措置が再延長され、受講意欲に歯止めがかかったことが影響したものと分析できる。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

<公演事業>

事業1「芸創オペラ」は、準備段階での進行で予定よりも多少の遅れを見たが、これは令和3年度に、新型コロナウイルス感染症拡大のため前売り開始後に上演を中止した事が影響し、舞台業務ほかの委託事業者との連絡・交渉に一定の慎重さが求められ、全体の進行に時間がかかったためである。

事業2「ANET30周年記念公演」は、共催団体であるANET（愛知芸術文化協会）内の人事で完結する業務が多かったため、事業1のような影響を受けにくく、予定に沿って実施することができた。

<人材養成事業>

「バレエアカデミー」は全体として当初の予定どおりに進行し、事業期間は適切であったと考える。唯一、予定に反したのは、受講者35名の目標に対して応募が26名に留まった点である。受講生を募集した2022年3月は新型コロナウイルス オミクロン株が流行しており、バレエを含めた対面型講座への参加が疑問視される時期であった。目標通りの受講応募を得られなかったのは、この時期ゆえの影響が窺われる。

そして、この影響が令和4年度末まで続いた事実を根拠に加えれば、もし募集時期を変更したとしても、影響を避ける事はできなかったであろうと分析できる。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

<公演事業>

事業1「芸創オペラ」はオーケストラの起用を検討していたが、ピアノを主体としたアンサンブルの伴奏となった。これは新型コロナウイルス感染症拡大の状況を勘案しながら集客を予測して、オーケストラの起用に見合う収入を期待できるかどうか検討していたためである。このように不安定な状況が公演の数ヶ月前まで続いていた。感染症の社会的な状況は、事業の収支にもかなりの影響を残している。

こうした影響を受けた点は、事業2「ANET30周年記念公演」も同様であった。

<人材養成事業>

「バレエアカデミー」は全28回の講座を完全に実施するため、講師謝金を892千円確保する必要があった。助成金の内定を受け、2か月おきに支払いを行う計画通りに支出を遂行できた。

その他の科目の支出についても、平成30年度の収支記録を基に適切な支出を積算しておくことで、規模・内容の水準ともに従前の通りに実施することができた。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

<公演事業>

事業1「芸創オペラ」は林光による『森は生きている』（サムイル・マルシャーク原作）を題に採った。同作品は国産オペラ作品の中でも人気が高く、にもかかわらず、名古屋市内では2016年を最後に上演が途切れていた。こうした作品を、プロのオペラ歌手を中心にセミプロ・若手が集まって観応えのある舞台として上演した事は、名古屋の芸術創造力の発露だったと言える。

事業2「ANET30周年記念公演」は、台本も含めてすべて名古屋で創造した。その内容は、“新型コロナウイルス感染症拡大によって活動の場を制限された舞台実演家の状況”を下敷きとしていた。作中で描かれた「公演どころではない」という社会情勢は、出演者・鑑賞者が等しく影響を受け、共有してきたものである。

すなわち本事業は、活動を制限された時期を逆手にとる形で、表現者と鑑賞者とが共鳴できる作品を創造した点で、この時期にのみ可能な創造事業であったと言え、地域の文化拠点にふさわしい成果であった。

<人材養成事業>

「バレエアカデミー」はシンデレラ（プロコフィエフ）、バレエの情景（グラズノフ）等の演目を採り上げた。これらはダンサーの技能修習に適した難易度を持ち、また内容がポピュラーである（シンデレラ）、理解しやすいものである（バレエの情景）等、バレエ鑑賞の初心者にも楽しめる要素が多い。結果、受講者には参加しやすく、観客には鑑賞しやすい事業となった。

くわえて本事業は、当センターの最大の練習施設であるリハーサル室（舞台と同寸を取った稽古を、鏡に向かって行える）を28回に渡って講座にあてた。これは一般的なバレエスタジオを超える規模であり、受講者にとっては、かけがえのないバレエ体験となった。

対象者は学習養成課程ではあるが、講師と受講者が気持ちを一つにしてレッスンを行った結果、質の高い作品創造という成果を得ることができた。舞台・リハーサル室を同寸で揃えている当センターの長所を活用して、学習養成課程（中長期的に、地域の舞台芸術文化の中心になっていく世代）を育成する事業として成功したと言える。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

<公演事業>

新型コロナウイルス感染症の影響により、名古屋市域の大規模な舞台公演は、事実上、開催が不可能な状況となっていた。舞台表現芸術は継続的に発表し観衆の評価を受けなければ衰退し、再開は困難になっていく。

令和4年度は、各種文化事業が激減したコロナ期の三年目にあたり、事業1、2ともに、最後まで実施したこと自体が地域の文化芸術への貢献になったと言える。

加えて事業1はオペラ公演で、事業2は10団体を含む合同公演であり、携わる人数の規模が非常に大きい。よって入場料のみを財源とした場合、公演中止のリスクを抱えたままでは、実施どころか準備さえ進められない状況であった。助成金の内定により、財政基盤を安定させた事で準備・実施が可能となり、上記の成果を得た。

地域の文化芸術を3カ年の公演不可能状況から回復させ、今後の発展につなげる成果であった。

<人材養成事業>

「バレエアカデミー」の主眼は、同世代のダンサーが集い、ともに刺激し合うことで生まれる若手ダンサーへの支援・育成である。

今回の事業により、受講者および修了公演の来場者それぞれが本事業を高く評価しており（※（2）有効性の項参照）、これは名古屋市域のバレエ文化に資する好影響を発揮していくことが十分に予見しうる内容・成果である。

また本事業の進捗は、当センターのSNS（Twitter、Facebook）および月刊の情報紙で発信した。

本事業の内容や、当センターの取り組む方向性を地域住民と共有し、波及させていく事が目的であった。該当エントリーには多くのリアクションがあり、目的どおりの効果を得たといえる。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

名古屋市文化芸術推進計画において、当センターは【創造発信型施設】に位置づけられる。最大 640 名の収容人数を持ち、かつオーケストラピットや張り出し舞台を選択した多彩な舞台表現が可能である。この収容人数は、中規模ホールの閉鎖が続き、大規模・小規模ホールの二極化が進む名古屋市内では表現者にとって希少な存在である。こうした点から、当センターが地域文化の持続に果たす創造発信の役割は、

- ・小規模ホールでは不可能な舞台表現を行うこと
- ・公演事業の成立にあたり、大規模ホールよりも経済的負担を軽減させること

の二点にあると言える。

<公演事業>

事業1「芸創オペラ」はオーケストラピットを用い、生演奏によるオペラ公演を、5,000円（オペラの固定客層以外にも訴求できる安価な入場料）で成立させた。このように小規模・大規模、いずれのホールでも成立が難しい事業を今後も継続実施して、組織活動の持続に貢献していく予定である。

事業2「ANET30周年記念公演」は、愛知県の文化団体のうち10団体が横断的に共演する点が特徴的な成果であり、事業1で挙げた成果と同じく、中規模ホールの特色を活用した

また、事業1・2ともにボランティアスタッフが受付を担当し、市民の手で発信される文化事業となった。

<人材養成事業>

「バレエアカデミー」の出演者は学習養成課程であり、修了公演の入場料は安価（最高額3,100円）に設定した。したがってプロ水準のバレエ公演を求める層には果たす役割がなく、訴求する要素もなかった。

しかし、プロ未満の学習養成課程者に中規模ホールで主役を任せる経験は、本事業ならではの要素である。

(2) 有効性の項で述べた通り、出演者・来場者双方のアンケートで非常に高い評価を獲得した。

本事業の有効性を再確認し、今後も実施を継続して、受講者がプロ水準の表現者となる過程を支援していく。